

研修会だより

編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 8階
電話 011-204-5781 ファックス 011-261-7431
E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp
ホームページアドレス http://manabi.pref.hokkaido.jp/



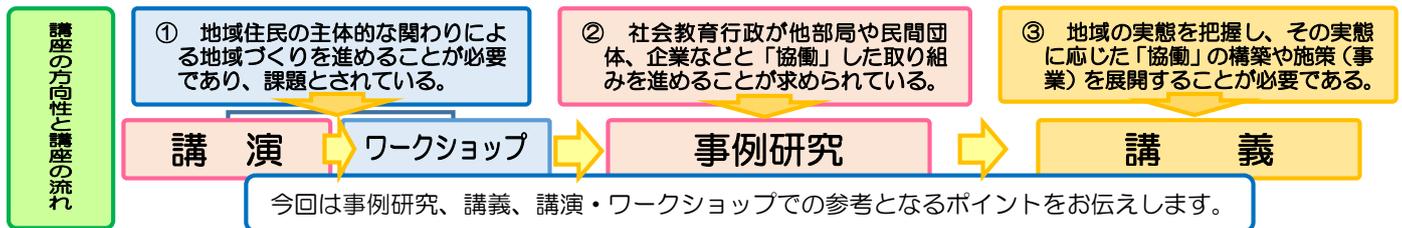
「つなぎあい」から「にないあい」へ 「協働(互助・共助)」によるまちづくり・人づくり

◆◆平成26年度生涯学習推進専門講座終了◆◆

＜研修テーマ＞「協働(互助・共助)」によるまちづくり・人づくりに向けて
～新たな施策(事業)構築に向けた地域の実態把握の手法を知る～

平成26年11月6日(木)、7日(金)に道民活動センタービル「かでる2・7」を会場に、平成26年度生涯学習推進専門講座を開催しました。30名の定員に対し、市町村教育委員会、社会教育関係団体の職員、民間団体(NPO・企業)関係者等が道内各地から42名参加し、「協働(互助・共助)」によるまちづくり・人づくりのための実態把握の手法について学びました。本号ではその研修内容のポイントを紹介いたします。

◆◆ 研修の流れと事例研究・講義の Point! ◆◆



事例研究から ⇒ 視点は住民との協働

<p>夕張市の事例 事例発表者 夕張市教育委員会 木村 愛 氏</p> <p>「地域の自立」行政からのパートナーシップ</p> <p>夕張市 成鉱から観光への政策転換 (ハコモノ行政)</p> <p>夕張市民 成鉱事故等の困難が、自然と助け合える絆となる(協働の素地がある)</p> <p>財政破綻 ⇒ 市民が自立しなければならなくなった</p> <p>行政は… ⇒ チャンスだ! 市民は変わる!</p> <p>◇ 市民との協働(活動例)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 子ども文化の会 かせちゅる * ゆうばり生涯学習推進プロジェクト * わくわくプロジェクト <p>◇ 活動を続ける市民団体</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学校支援ボランティア * ゆうばり再生市民会議 * 遊縁の再生を考える高齢者の会 <p>行政と市民の関係(何が変わった?)</p> <p>行政: 協働ありきに! 市民: 当事者意識が芽生え、活動しやすい環境に!</p> <p>＜協働のプロセス＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① メリット感(て人は振り向き) ② 危機感(て人は動き) ③ 使命感(て人は続ける) <p>* 「誰かのために活動したい」 ⇒ 回結するためのベクトル</p> <p>＜協働の取組から思うこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 行政と市民 * 互いに歩み寄ることが大切(住民はまちづくりを行う同士) ⇒ 社会教育主事の出席(行政・住民のクッション) 	<p>札幌市の事例 事例発表者 札幌市役所 長尾 隆男 氏</p> <p>NPOを核とした住民の協働による地域課題解決の仕組みづくり</p> <p>拠点: 市民活動サポートセンター</p> <p>基本ルール: 市民まちづくり活動促進条例 ⇒ 根拠 札幌市基本条例</p> <p>＜市民が主役のまちづくり＞ 情報の共有 市民参加 身近な地域のまちづくり</p> <p>＜4つの支援＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 情報の支援 * 活動の場の支援 * 人材育成支援 * 財政的支援 <p>◇ NPOによるネットワーク事業(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> * NPOと町内会による協働の取り組みを支援 * 多様な主体の連携・協力関係を構築 <p>＜事業のポイント＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域に活動基盤を持つ、ネットワーク型NPOが「核」 ② 地域住民が主体・主導の課題解決の取組 <p>＜取り組みの課題は…＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * きっかけづくり * 主体的参加と適切な役割分担 * 他地域への波及 * 事業性・ソーシャルビジネスの視点
---	--

講義から 「まちづくり、人づくりにつながる社会教育調査とデータの活用」講師 北海道大学大学院教育学研究院 宮崎 隆志 氏

<p>＜Point1＞</p> <p>◇ 事業構築の困難性と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> * 社会教育計画→実現可能? 絵に描いた餅? <p>◇ 教育委員会が企画する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> * 予定どおり実施することが「実現」なら容易 * 「参加者が少ない」→住民ニーズ把握の不十分さ <p>◇ 「人づくり」につながる事業計画にする難しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> * 目的が達成されていない→計画の実現可能性(低) * ※ 今問われている側面→社会教育は必要なのか? 	<p>＜Point2＞</p> <p>◇ ニーズとは何か?</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「興味はありますか?」という質問だけでは把握できない要求 * 「要求」「興味・関心」「欲求・必要」すべてをニーズと捉えがち * 「興味・関心」は住民アンケート、意識調査のレベル * 「欲求・必要」はニーズに不可欠なもの <p>◇ 要求について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「要求」は意志をとまなう(正当性・権利性) * 「責任あることをしたい」→「失敗して傷つくことを回避」 →自分の安全を守る→「ニーズの封じ込めメカニズム」 * 「本当は…」のつぶやきを拾い上げることが大切 	<p>＜Point3＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「つぶやき」を拾い集める ◇ 「つぶやき」の収集方法→「たまり場」 * もやもや(ニーズ)がたまるから「たまり場」 * ニーズの「生みの親」 →具体的な困りごとを持ってくる人 ◇ 地域の縁側(公民館) * 公民館の役割の大きさ →「本音を語る」(場をつくる)
--	--	--

協働(互助・共助)を効果的に進める基盤をつくる！ 場づくりのポイントは「話し込み」「黙りあい」から「聞き合い」へ

講演から…

まちづくりの「3もの」とは？ ⇒ よそのの わかもの ばかもの

協働の働きかけ先

協働のプロセスとは…

- ① 情報の共有化
- ② 流れの透明化
- ③ 役割の明確化

これを構築するためには「人間関係づくり」から

〈教育とは何か ミニワーク1(話す・聞く)を実践〉



受け入れることの難しさを知る

◇ しっかり「聞く」ことは可能なのか？

◇ 心の声と言葉の声？

- * 聞いているつもり → 思い込み？
- * 聞いているふり → 見せかけ？

- * 身ぶりのコミュニケーション
- * 話す内容は？、話し方は？

(聞くことの広がり)

(対極)

(難しい)

聞き合いができれば…

1対1で話し合いができる

【仕掛け】

【仕掛け】

協働は構築できる

〈ミニワーク2 相手の述べた
ことに対する自分の意見を実践〉

(つまりは、何が 필요한のか？)

傾聴すること ⇒ 「相手の思っていることをまとめる力」「相手を引き出していく力」が必要

「ディスコミュニケーションの必然性」(曖昧さの回避)

「教える - 学ぶ」の問い直し

◇ 「伝達」の4つの局面

- ① ○ → ○ 伝えたゆえに伝わった
- ② ○ → × 伝えたのに伝わらなかった
- ③ × → ○ 伝えなかったのに伝わった
- ④ × → × 伝えなかったゆえに伝わらなかった

◇ 「教える - 学ぶ」と「教わる - 学ぶ」の関係

- ① ○ → ○ 教わったゆえに学べた
- ② ○ → × 教わったのに学べなかった
- ③ × → ○ 教わらなかったのに学べた
- ④ × → × 教わらなかったゆえに学べなかった

「伝える - 伝わる」ことは違う
⇒ 新しいコミュニケーションが生まれる

「教える → 教わる → 学ぶ」
「教える → 学ぶ ↔ 学ばない」の間接性

◇ 「教育」の誤解…

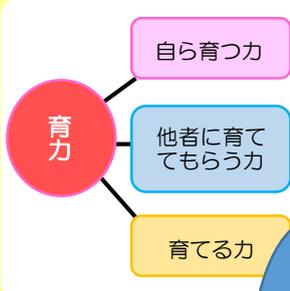
- * 「今までの教育」→ 上から教える・教わる(という考え)

◇ 教育概念の再定義

- * 「教育 = 教え育てること」という定義に対する疑問
- * 「教」と「育」→ この二文字で成り立つ日本語
⇒ 教(手段)育(目的)
⇒ 育てる/育むの実行が大切

◇ 「教育とは何？」のイメージを変えることが大切

- * 「教育とは」→ 内から外へ引き出す、外から内へ引き入れること
→ さらに、いろいろな可能性を「引き出す」のが
「社会教育」(やってみるとわかる教育)



協働(互助・共助)の仕組み・仕込み・仕掛け！

◇ 連携とは…

- * 「どことどこが」の話になるが…
- * 「どうすれば連携できるのか」の話になるが…
- * 基本は「人と人がつながる」こと

◇ 充電(入力)から放電(出力)へ

- * 人は充電すればするほど放電(交流)したくなる
→ 「やりたい」という気持ちにさせる

ワークショップから…

新しい人間関係が
新しい発想を生む

〈ワークの流れ〉

① 自分の現実を知る
メンバーのニーズを把握
情報を共有

入力・出力

② 自分の理想をひらく
このメンバーなら
「こんなことができる」
「こんなことがしたい」

交流

③ シェアしたことをまとめる

④ 発表

⑤ 評価



本講座の「講演・ワークショップ」は、講演から「仕込み」が始まり、ミニワークという「仕掛け」を使って、講演からワークショップまでの「仕組み」の中で、グループごとに、協働が構築されるという流れを構成した内容で展開されました。

講師 宇都宮大学地域連携教育
研究センター准教授
佐々木 英和 氏
専門分野は教育学・社会教育学。
生涯にわたり学び続けるための
意欲・技術・見識などを身につける
ための教育などについて研究
を行っている。

●本研修会事業報告書について●

「平成26年度主催講座一覧」(<http://manabi.pref.hokkaido.jp/center/jigyoku/h26/index.html>)に掲載していますので、本研修会だよりとあわせて御覧ください。また、本研修講座の内容や資料についてのお問い合わせは、担当：柴野 ☎ 011-231-4111 (内線 36-328) まで御連絡ください。

◎研修のご案内◎

地域生涯学習活動実践交流セミナー 2月17日(火)～18日(水) かでの2・7
(実践事例の交流と地域における生涯学習活動推進上の課題解決を図るための研修)



今回の講演からワークショップ
すべてが「仕込み」

【仕込み】の段階